

## 笑顔いっぱい花いっぱいの東藤島

東藤島公民館

### 1 東藤島地区の概要

東藤島地区は福井市の東部に位置し、北は九頭竜川、中心部には藤島城址や林藤島遺跡、東・西の超勝寺、南には原目山や重立山の古墳群など、数多くの旧跡を有している。江戸時代には中ノ郷地区を起点とした芝原用水が造られ、福井城下に上水を供給していた。現在は、芝原用水が農業用水として広く福井平野を潤す他、北野下町にある九頭竜浄水場から市内の約8割の水道水を供給している。このように地区一帯は、九頭竜川の水を活かした豊かな水と緑の田園地帯が広がり、歴史の宝庫である。

地区を通る国道416号線や国道8号線、北陸自動車道などの交通網が充実するとともに中部縦貫自動車道もさらに延伸され、東の玄関口として発展してきている。特に、地区の西部には多くの商業施設が進出し、急速な都市化が進みつつある。中でも、九頭竜川は地区内外の人たちにとって今も憩いの場であり、整備されたサイクリングロードでウォーキングやマラソンなどを楽しむ人が絶えない。

令和6年3月1日現在、人口は3,542人、世帯数は1,319戸である。

### 2 地域に活かす学び合い

公民館では、参加される方が楽しく学び合いつつ、学んだことを地域社会に生かせるような教育事業の企画に努めている。また、地区内でのつながりをもっとつくりたいと、活動の様子を公民館だよりの「学級通信」のコーナーで写真付きで紹介している。

#### (1) 学び合い、つながり合い

ボランティア促進の「おもてなし講座」は、東藤島地区の花いっぱい運動を継続し、きれいな花でのおもてなしを意識した講座である。この講座の受講者を中心に



花いっぱい運動はさらに広がり、地区の全自治会が参加する花壇コンクールへとつながっている。

また、「タオルケア帽子作り」は、抗ガン剤の副作用で脱毛に悩む患者さんに使ってもらおうと、フェイスタオルから手縫いで帽子を作る講座である。作りながら患者さんを取り巻く状況なども聞き、みんなで工夫しながらボランティア活動に取り組んでいる。

地域課題解決事業の「四季折々楽(がく)」では、一緒に五感をフルに使おうと月1回、季節を感じる「楽習会(がくしゅうかい)」を行っている。地区内の福祉施設と連携し、館の畑で入所者と一緒に育てた野菜や植物を材料に、コキアの箒や綿のブーケ、サツマイモやサトイモなどを使った料理教室は大好評である。その他、避難時に役立つ布草履製作などの防災教室や母の日に合わせてカーネーションを飾ったフレームづくり、夏の日焼け対策として効果的なハーブを使った化粧水づくりなど、季節に合った内容で開設している。その際、できるだけ地区の人材を講師として活用できるようにしている。

高齢化社会を迎える今、このような講座は地区民どうしの交流の輪となっている。

#### (2) 子どもたちは大切な地区の一員

少年教育講座「なかよしぐみ」では、子どもたちが体験を通して仲間づくりや地域の一員としての意識を高められるよう工夫している。活動には、ビオトープでの生物調査をはじめ、地区内の花壇に看板を作る



アート教室「看板に絵をかこう」や、祖父母世代と一緒に「風鈴づくり」などを組み込んでいる。

子どもたちが、地区に還元できるものを作ったり、地区の方と交流したりする活動を通して、地区への親しみを深めることを期待している。

### (3) 地区の誇りを後世に

西超勝寺は岡倉天心の先祖の菩提寺である。この縁から、岡倉天心福井県顕彰会と連携し、近代日本美術界を牽引した天心を偲び、その偉業を遺し伝える活動を行っている。

毎年、命日の9月2日には、西超勝寺で行われる「天心忌」に東藤島小学校の児童も参列し、天心の功績をたたえる「誓いの言葉」を述べている。また、児童や地区民を対象とした学習会「岡倉天心を知ろう」を開設し、その功績や彼の越前人としての誇りや生き方などを学び合い、地区内で伝えている。



## 3 まちづくり、ゆめづくり

公民館では、東藤島地区まちづくり推進協議会の「東藤島に住んでよかったと思える地区にしたい」との願いを共有し、様々な活動を行っている。

### (1) 島根県安来市荒島地区との交流で地区を活性化

平成16年から始まった島根県安来市荒島地区活性化推進協議会との交流は、今も住みよい地域づくりを目指して相互訪問交流を継続している。両地区は「多くの古墳、豊かな水（宍道湖と九頭竜川）、平野、駅」など地域環境の点で共通点があり、平成19年には東藤島安来節同好会も発足するなど、荒島地区とのふれ合いが地区に根付きつつある。



令和5年度は、荒島地区から16名が東藤島地区を訪れ、まちづくりについての意見交換をはじめ健康ウォーク大会に参加し、東藤島地区を回るなどして交流を深めた。次年度は荒島地区を訪問し、活動報告会や「古代王陵の丘健康ウォーク」に参加する予定である。

### (2) えちぜん鉄道の沿線と駅を整備し、素敵なまちに

地区内に、えちぜん鉄道の駅が3つあり、駅は運転免許証をもたないお年寄りや高校生にとって大切な場

所である。そこで駅環境事業委員会を中心となり、駅舎の改装や清掃、本棚の整備、絵・生け花などの展示を行い、親しみやすい駅づくりに努めている。また、駅を中心に地区の活性化を図ろうと駅のパークアンドライド事業を進め、島橋駅には36台分の駐車場を整備した。

さらに、壮年連絡協議会と連携し、線路沿いのフラワーロードの草取りや花壇の整備を行っている。これらの活動を東藤島の「世間遺産」として地区内外に紹介している。



### (3) ビオトープを通して引き継ぎたいふるさとの自然

自然に恵まれた東藤島地区ではあるが、近年の開発により地区内の環境が様変わりしつつある。

そこで、ビオトープ事業委員会が中心となり、懐かしい田んぼの風景を蘇らせたいと、ビオトープや東屋を整備した。地区内を流れる芝原用水を活用したもので、子どもたちの観察や学習、住民の憩いの場として利用している。また、学校教育田と一体となっており、子どもたちが田植えや稲刈り・はさ掛けなどを体験する場にもなっている。



## 4 終わりに

東藤島地区は水と緑に恵まれ、交通の便もよく住みよい地区だが、近年、少子高齢化の波が押し寄せ人口が減少してきている。今、このような地区をどう活性化していくかが大きな課題となっている。

公民館では、まちづくり推進協議会を軸に、将来に向けての方策を検討し実行に移さなければならないと考えている。地区民がいつまでも「東藤島地区に愛情をもって住み続けたい」と思えるような将来に向けての方策を探っていきたい。

歴史ある史跡や豊かな自然、温かい人のつながりにあふれる東藤島地区。大切なものを守りつつ、未来に向けて学び合って活動しておられます。今後も、花と笑顔にあふれた住みよい地区としてさらに発展されることを願っています。